

視覚障害児童・生徒の教育環境を考える講演会

特定非営利活動法人 日本点字技能師協会
〒353-0006 埼玉県志木市館2丁目4番5-306号

助成事業の概要

平成20年にも助成していただき、視覚障害児童・生徒の教育環境を知るための講習会を開催し、その後、点字教科書や触読についての学習もしました。近年では、視覚に障害があっても地域の学校へ通うことができるようになりました。しかし教員は点字を知りませんし、視覚障害を正しく理解し点字で教育をするには相当の時間が掛かります。まずは現状を知り、そこから私たち点字技能師にどのような支援ができるのかを考えたいと思います。平成23年12月に大阪で講演会を開催し、様々な立場の4人の講師からお話を伺いました。1日目の講師は長年盲学校で教鞭を取り、点字教科書の編集にも携わり、退職後の現在では、視覚障害の子供を対象に開催する「科学へのジャンプ」のスタッフでもあり、盲教育経験が豊富な鳥山由子氏。2日目の講師1人目は、視覚障害児がいる小学1年の担任をしている井上良子氏。普段の学校での様子や学ぶための工夫、問題点などを話していただきました。2人目は、元教員で、現在は視覚障害児数名をボランティアの立場でサポートしている山本有美子氏。3人目は、点字技能師であり、点訳ボランティアとして高校生の教材支援をしている長江まゆみ氏でした。

事業の成果

鳥山氏には、視覚障害の生徒の教育法について話していただきました。一般校で、見える子と一緒に同じ時間内に学ぶことの難しさがよくわかりま

した。また、見えない子にもきちんとした教育をすれば、能力は伸び、将来社会に出ても自立できることも分かりました。生活面において、一般校にいと陥り易い「甘え」、人数が少ない盲学校の長所・短所などもあり、初めて知ることも多く、有意義な講演でした。井上氏には、一般校で見える子と一緒に学んでいる子の学校での生活の様子や学習の工夫、支援してくださるボランティアの支援の仕方、他の児童の保護者の反応、他の先生方の関わり方などを話してもらいました。もうすぐ入学して1年になりますが、現時点では他の保護者からの苦情などは出ておらず、運動会では温かい声援をいただき、とても嬉しかったそうです。現在は盲教育資格がある井上氏が担任ですが、長くても2年、その後担任が変わります。本人にもその方がいいけれど、他の先生方は点字を知りませんし、学年が進んでいく子の教育にはより点字を理解している必要があります。その点を心配しているそうです。山本氏には、教員時代の視覚障害児の教育と、退職後はボランティアとしてサポートしている体験の中で、点字を習いたての先生が点訳するご苦労を話していただきました。点字に関しては疑問点を質問するところがあること、同じ大変さを理解し合う人がいることが心強いと強調されていました。長江氏には、点訳ボランティアが仕事として高校生の教材点訳をする際の制度や間に入る業者のこと、学校側の無理解や行政の関わり方を話していただきました。学校に出向いて点訳しているにも関わらず、点訳を依頼している生徒と実際に会ったのは、点訳を始めてから数カ月後だそうです。規則や制度に縛ら

れている現状などを聞くことができました。参加者からは、この現状の中、自分たちには何ができるのだろうかという思いを持たれた人が多いようです。

■ 今後の展開

一般の学校で視覚障害の子を受け入れることの苦労や問題点が浮き出されました。ただ保護者が普通の学校へ通わせたいと思っている以上、盲学校の教育の方が優れていると勧めてもすぐには変わらないと思います。その現状の中でできることを考えてみると、保護者や先生を支援するために役立ちそうな団体やボランティアグループ、相談できる機関など助けになりそうな情報を発信することだと思い、発信できる情報を集めようと計画しています。